



落下した岩が国道180号をふさぐ。そのほか、数か所で岩や土砂が流れた



下黒坂の道路は2m以上の段差ができる



町内全戸が被害に遭う。全壊は129戸、半壊441戸、一部損壊945戸



震災直後から自衛隊による炊き出しなどの支援が始まる



解体家屋のガレキ分別をするボランティア。全国各地から多くの人が集まった



「蔵」美術館の隣りにある小谷博徳さん宅の縁側で雑談会
右から飛田さん、小谷さん、佐々木さん、井上さん、山下さん

写真展を終えて一。

今回、震災写真展を企画した日野ボランティアネットワークの山下さん、蔵美術館長の小谷さん。そして、展示を手伝った若者3人。県西部地震の写真や資料の整理は、4年前の記憶をよみがえらせた。今回の写真展に携わった5人に当時や今の気持ちを聞いてみました。

- 小谷 博徳さん（上菅） 震災体験を風化させてはいけません。写真展を機に今一度思い出してほしいです。
- 山下 弘彦さん（根雨） 当時の鮮明な記憶は薄れつつあると思います。常に防災意識を大切にしてほしいと思います。
- 飛田 学さん（黒坂） 両隣りの被害写真を見つけ、仮設住宅生活など忘れかけていた記憶を思い出しました。
- 佐々木勇紀さん（舟場） 震災当時、不安で眠れなかったことやがけが崩れ落ちる瞬間を思い出しました。
- 井上 智弘さん（米子市） 報道で被害は知っていましたが、実際の被害写真を見て、そのすごさにおどろきました。